

普通の在り方

富岡東高等学校羽ノ浦校

一年

南 みなみ ほのか

(敬称略)

私は「普通」というものが何なのか分からない。誰かが「ちよつと変わってる」、「普通は〇〇でしょ」などの言葉を言うたびに、普通じゃない!! 異常という方程式が私の中で成り立つ。

私は周りからよく「抜けてる」、「ドジ」などの言葉をよく言われる。自分でもそう思うことが多々ある。周りの子ならしないようなミスをするところがある。そんな時に私は普通じゃないからこんなことを言われるし、ミスもしてしまうのだろうと悲しくなる。

私は普通というものに息苦しさを覚える。どうやら私の普通とみんなの普通は基準が違うらしい。普通が周りとは違うだけで息苦しい思いをしなればならないのはなぜなのか。自分の普通はもちろん自分で決めるもの。他人の関与は多少なりともあるだろうが、大部分を決定するのは自分自身だ。それゆえに普通じゃないといわれると自分自身を否定された気がしてしまう。生きている者全員がそれぞれ違う普通を持っている。その普通を自分自身だけの範囲であてはめるだけならだれも傷つくことはないだろう。しかし、これを他の人に向けてしまうと、傷つけてしまったり、決めつけられた枠にはまらなくてはならない息苦しさを感じさせてしまうところがあるかもしれない。自分なりの普通を持っているのに誰かの普通に合わせることはとても窮屈で疲れる。それを強要させてしまうのが「普通の怖いところだ」と思った。

私達はお互いの普通を押しつけあって生きている。普通という枠組みにはまっていることというのは安心することができる。しかし大勢の人が作りあげた普通の枠組みの外にいる人はどう感じるだろうか。自分だけと残りされたような疎外感や孤独を味わうのではないか。そんな人は一人もいてはいけないと思う。

近年ではLGBTという性別をめぐる問題が浮上している。これまでの社会は女性は女性として、男性は男性として生きること、異性同士でしか結婚してはいけないことが普通だった。女性か男性かで生きること、それが普通だった。体は男性でも心が女性だったら男性として生きなければならぬ、そんな窮屈な社会だった。しかし、今では改善されつつある。体は男性だった人が体も女性となり、女性と生きたり、同性婚が認められ

たりなど改善が見られていない。それでもまだ、冷ややかな目で見られたり、悪口を言われたり不遇な扱いを受けているのを見かける。それを早くなくすためにも、早急に解決しなければならぬ。

これまで作り上げてきた普通を急に変えるのは難しい。しかし、一人一人が互いの普通を押しつけることなく、受け入れ認めることができれば普通は変わっていく。大事なのは自分の普通を押しつけないことと、相手の普通を否定しないことだろう。みんなの普通を組み合わせることができれば社会はもっとよいものになると思う。